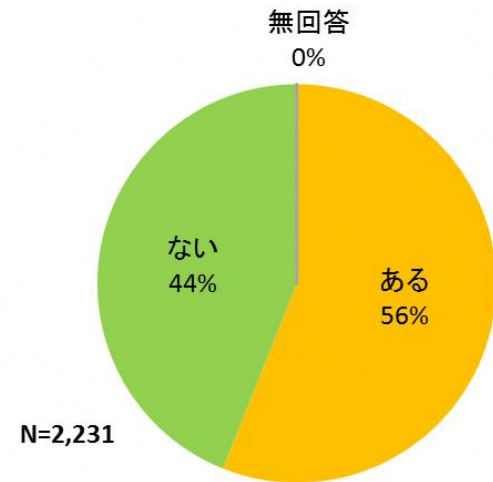


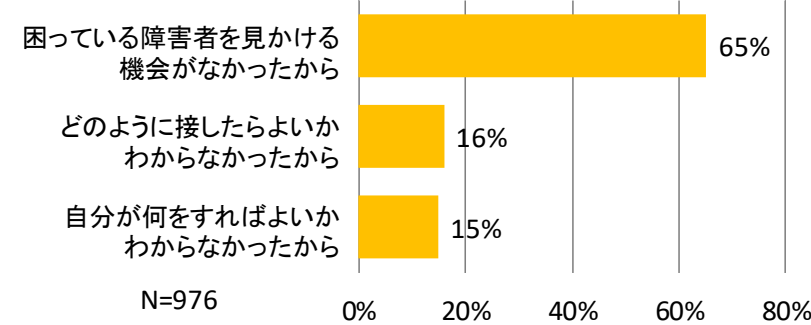
5. 障害者への手助け経験

『手助けしたことがある』方が回答者の半数を超える

Q：あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。（○は1つだけ）



Q：「2 ない」とお答えの方におうかがいします。なかったのはどうしてでしょうか。（○はいくつでも）



障害者が困っているときに、手助けをしたことがあるかどうかを尋ねると、「ある」が5割半ばとなっています。「ない」と回答した方の理由に、「どのように接したらよいかわからなかった」、「自分が何をすればよいかわからなかった」と回答している方が一定数いることが分かります。

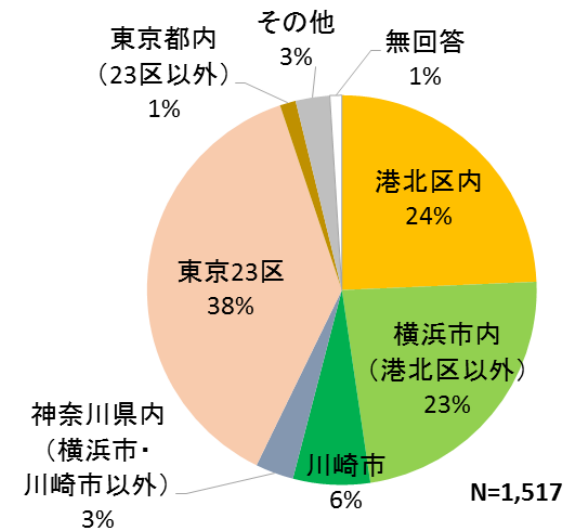
6. 通勤・通学場所

「横浜市内」への通勤・通学が半数。「東京23区」は約4割と、全市と比べて多い

Q：あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（○は1つだけ）
 <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>



主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割弱で、港北区内はそのうち半数程度となっています。「東京23区」（38%）は、令和元年度市民意識調査の「東京23区」（26%、自営業・学生は対象外）と比べ、多くなっています。



各項目の比率（%）は、小数点以下を四捨五入しています。そのため、グラフの合計が100%にならない場合があります。



令和2年度 港北区区民 意識調査結果 （概要版）

港北区役所では、区民の皆様のご意見を活かした区政運営をすすめるため、区民意識調査を4年ごとに実施しています。今回は生活環境や地域活動のほか、防災や身近な支援に対する意識や行動、区に取り組んでほしいこと等をお尋ねし、多くの区民の皆さまから回答をいただきました。

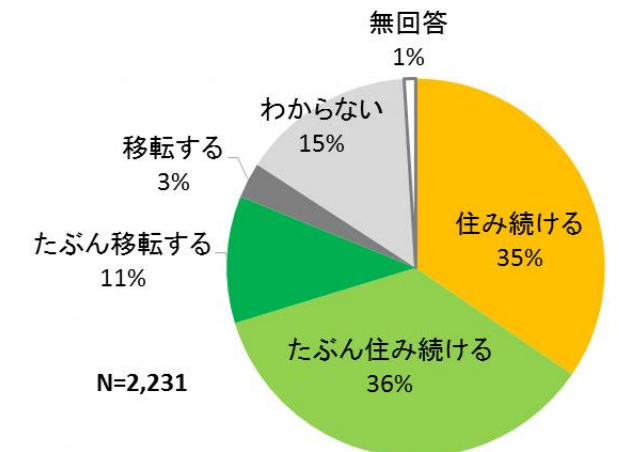
【調査概要】
 調査対象：①港北区区内にお住いの18歳以上の方3,000人（60人の外国籍区民含む）
 ②インターネット登録モニターによるWEB調査400人以上
 抽出方法：①住民基本台帳等から無作為抽出
 ②WEB調査は、登録モニターの有効回答者から抽出
 調査期間：令和2年5月20日～6月19日
 調査方法：①郵送による配布・回収 ※回収は電子申請・届出サービスも併用
 ②WEB調査は、インターネットによる質問・回収
 回収数等：①1,819件（回収率60.6%：前回34.3%）、②WEB調査412件

1. 居住意向

港北区に住み続けると 思っている方が7割を超える



Q：あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか。（○は1つだけ）



前回調査（平成28年度）に続き、「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、継続して住み続けたい方が多くなっています。このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」（70%）、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（57%）が上位となっています。

2. 市の行政など

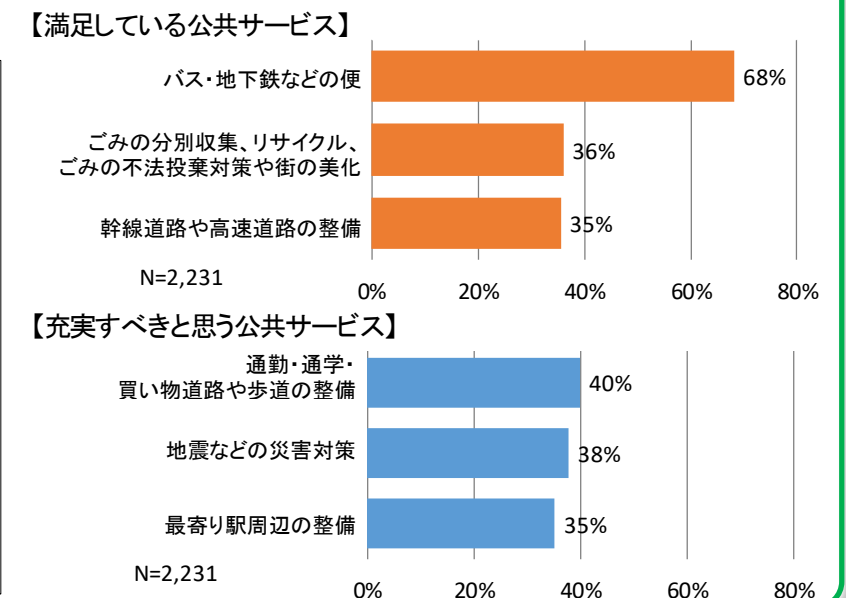
交通利便性を重視する方が多い



Q：あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。（全31項目から選択。○はいくつでも）

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が7割弱で最も多く、交通に関する項目を中心に、満足しているサービスとなっています。

【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」「地震などの災害対策」「最寄り駅周辺の整備」を充実すべきとの声が上がっています。このうち、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」について、未就学児のいる家庭だけに絞ると58%となり、充実すべきという声が多くなっています。



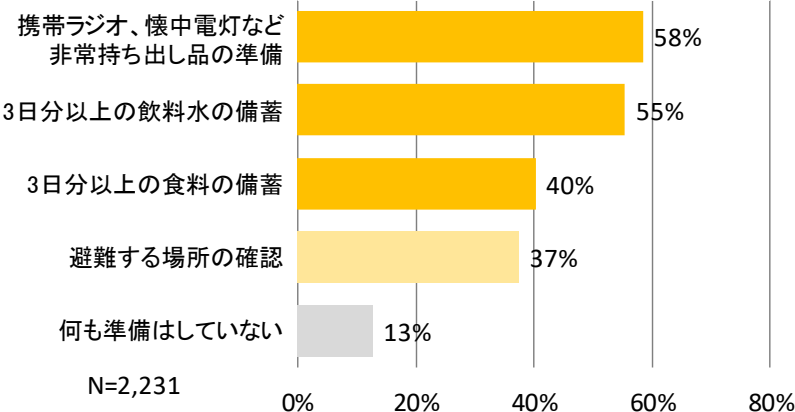
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q：あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（○はいくつでも）

地震があった場合に備えた準備は、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」「3日以上飲料水の備蓄」が5割5分程度で、「3日以上食料の備蓄」などは4割程度となっています。
在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと考えます。

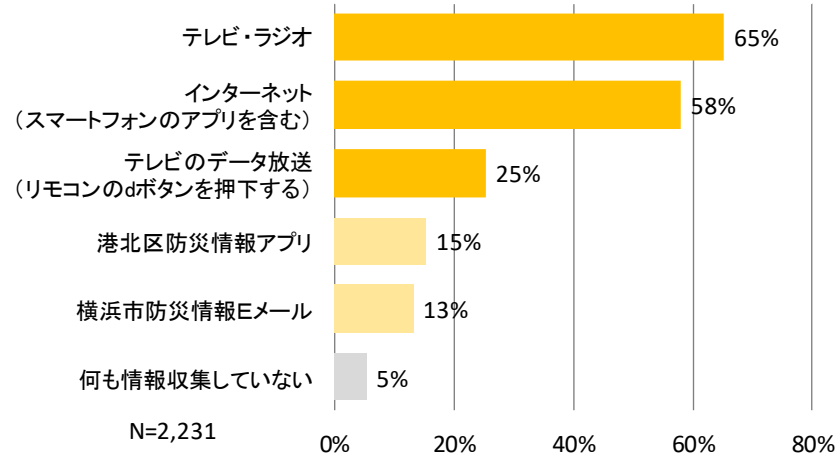


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

情報収集は、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他を大きく上回る結果に

Q：あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（○はいくつでも）

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。40代以下に絞ると、「テレビ・ラジオ」(57%)を超えて、「インターネット」(71%)が最も多くなっています。
「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、まだ割合としては少ないものの、前回調査(平成28年度)の同様の項目(民間アプリ7.9%、メール7.8%)から伸びています。

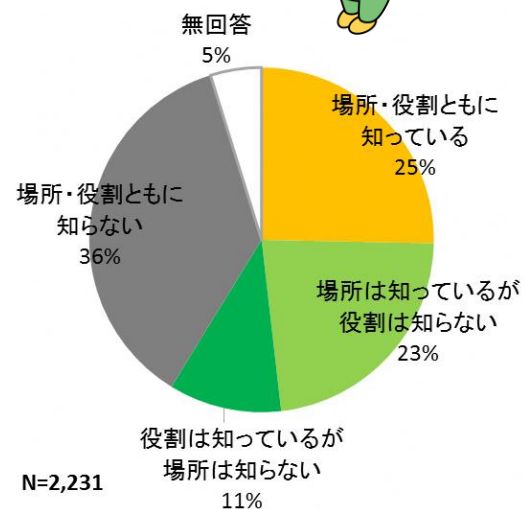


◆避難場所や避難所の役割について(地域防災拠点)

地域防災拠点は、『場所の認知』が約半数

『場所・役割ともに知らない』は、3割半ばという結果に

Q：あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(○は1つだけ)
※地域防災拠点：一定期間滞在して避難生活をする学校等



地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は、3割半ばでした。

4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

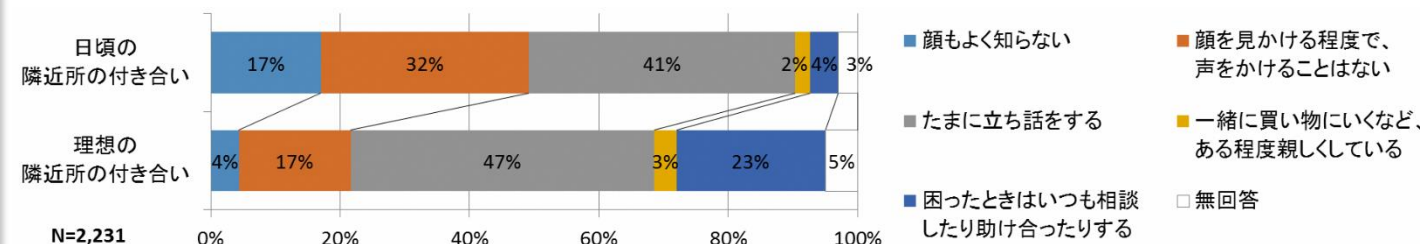
「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている



Q：あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いますか。(○は1つだけ)

「顔を見かける程度で、声をかけることはない」と「顔もよく知らない」の合計は、半数程度(49%)と、前回調査(平成28年度：44%)よりも多くなっており、近隣との関係は薄れてきていると言えます。特に、30歳代以下に絞ると、より多い割合(71%)となっており、近隣との関係がより薄い状況が顕著です。

理想の付き合い方では、「顔を見かける程度で、声をかけることはない」と「顔もよく知らない」の合計は2割程度となっており、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。



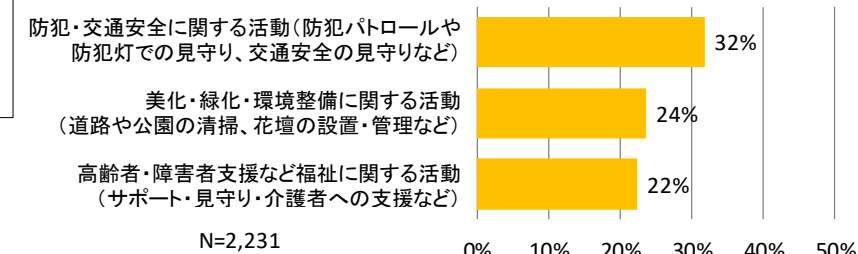
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特になし」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が、2割以上で上位となっています。

Q：今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(○はいくつでも)



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特になし」の回答は除く

回答者の7割強の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」「見守り・安否確認」「話し相手・相談相手・交流の機会」が2割以上で上位となっています。

なお、「特になし」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

Q：日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(○はいくつでも)

